

令和5年度の学校評価（重点目標）

本年度の重点目標		将来、テクノロジストとなりイノベーションを起こす人材を育成するために ～日本一の工業科高校を目指して～ 1 進学・就職の両立ができる愛知総合工科高校づくり 2 教職員が自ら行動し生徒に寄り添う愛知総合工科高校づくり	
担当	担当の重点目標	具体的方策	留意事項
1 総務部	ア 業務・行事の運営スケジュールの見える化 イ 開校10周年に向けた活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> ・運営スケジュールを検証し、改善する。 ・開校10周年記念式典の準備委員会を立ち上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の円滑化とスリム化を目的とする。 ・並行して3校合同同窓会の準備委員会を立ち上げる。
2 教務部	ア カリキュラム・マネジメントの定着 イ 校務支援システムの積極的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と評価の関係性をシラバス等で明示し、カリキュラムのPDCAサイクルを促進する。 ・授業改善と評価手法について、昨年度結果をもとに継続的に検討する。 ・各教科、毎授業の評価・欠課などを入力できるように整備し、学期末等の業務集中を避ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導と評価の一体化」の理解を深める。 ・生徒の学習改善につながる学習評価を行う。 ・各教科・学科・担任との連携を取り、校務データの一元化を進める。
3 生徒指導部	ア 遅刻者数の減少 イ いじめの未然防止と いじめ・不登校に対する指導	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の登校指導で生徒への声掛けを行い、遅刻者数の減少を図る。 ・いじめ防止年間計画の着実な実施 ・いじめに関するアンケートの実施と、教育相談の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の事情を汲み、生徒に寄り添った指導を行う。 ・いじめ防止に対する意識の向上を図る。 ・生徒をよく観察し、いじめの兆候を見逃さないようにする。
4 生徒会部	ア 生徒の自主性を促す活動の実施 イ 生徒会部、部活動の地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の課題を洗い出し、毎月一度、生徒による活動を実施する。 ・年度初めに地域貢献活動の計画を立て、計画に沿って地域と連携していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部が中心となり、様々な分掌と連携して生徒主体で進めていく。 ・行政や地域との連携を密にし、協力が得られるように進めていく。
5 保健部	ア 自発的な学習環境美化意識の涵養 ・日常の清掃活動の充実 ・美化委員会の活動 ・安全点検 イ 健康教育の充実 ・各種検診 ・保健委員会の活動 ・教員の長時間労働による健康障害の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃道具の充実を図る ・安全点検、用具点検を定期的に実施する。 ・生徒美化委員会の活動を充実させる。 ・奉仕活動 ・個別指導を通して、自己の健康に関心をもたせ、自己管理能力の向上を図る。 ・生徒保健委員会活動を充実させる。 ・定時退校日の案内を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各清掃区域の実態に即した清掃道具の確保に努力する。 ・生徒奉仕活動の定着を図る。 ・体調の自己管理表を活用し、熱中症の予防と健康管理に努める。 ・「保健だより」や掲示物を通じて情報を発信する。 ・広報活動と安全点検を実施し、学校の安全と衛生に努める。

6 図書部	<p>ア 図書館機能の充実</p> <p>イ 生徒図書委員会活動の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICTを積極的に活用し、より多くの図書館情報をリアルタイムに発信する。 読書センターとして、生徒の豊かな人間性を育むための図書を選定し、読書の習慣化を促す。 図書当番、図書館便りの発行、図書館祭りなどの図書委員会活動をより充実したものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内のネットワークツールを活用し、全校生徒を対象に図書館情報を発信する。 教員が生徒に薦めたい本、生徒が読んでみたい本を選定していく。 ICTを活用して、図書委員会と生徒との双方向の情報交流を図る。
7 進路指導部	<p>ア 企業の一次内定率や公務員の合格率の向上</p> <p>イ 企業内学園・技術者（専攻科含む）合格者70名の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> Teams等を使用して情報共有を行い、進路に関する意識を高める。 キャリア教育活動等の充実「夢・志クエスト」を出発点とし、キャリア教育の充実を図る。 T&E サポーター企業、連携校から講師を招き、キャリア教育に基づいた講演を月1回程度行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路に関して主体的に行動できるように指導する。 進路に関する自分の希望、保護者の考えが最終的に合致できるよう努める。
8 進学部	<p>ア 3年後を見据えた計画的な進路指導の実現</p> <p>イ 生徒一人一人の特色に合わせた進学指導により愛知総合工科高校から学びの継続による工業系リーダーの育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路指導を行えるよう進路ホームルームや学年の進路行事を計画的に行う。 進路検討会を通して、学年と学科間の連携を深め、生徒の進路実現の業務を円滑に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の意向や状況を確認しながら情報を提供していく。 本校生徒の特色に合った情報提供と推薦に関わる業務などをできる限りをわかりやすく提示できるようにする。
9 工務部	<p>ア 工業に関する興味・関心を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種資格・検定試験の冊子をもとに生徒の資格検定試験の取得に関心をもちさせる。 キャリア教育活動が積極的に取り組めるように生徒へ促し、産業に関する視野を広げる。 「夢志 Innovation 研究発表会」、「学校説明会」、「学科別体験入学」などを通して工業の内容を広く発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各工業科、学年と連携し、資格・検定試験の取得を促し、技術顕彰の全員取得を目指す。 学年、部活動と日程等を確認し生徒が充実した活動ができるように努める。 広報・ICT推進部と連携を取り、より効果的な広報活動に努める。
10 広報ICT推進部	<p>ア 学校ブランドの強化</p> <p>イ ICTの効率的活用</p> <p>ウ 教職員・生徒の情報共有・コミュニケーション向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行事や学内イベント、地域との連携を強化する活動をSNSやウェブサイトで発信する。 オンラインのホワイトボードツールやドキュメント管理ツール等のクラウドサービスを活用した情報共有をする。 オンライン・オフラインのコラボレーション環境を整備し、リアルタイムでの情報共有や編集を可能にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 信頼性と透明性を意識しながら、本校の特色を発信する。 教職員・生徒のITリテラシー向上を図る。 オープンな意見交換の場を設け、気軽に意見やアイデアを共有できる環境を作る。
11 1年生	<p>ア 基本的生活習慣の確立</p> <p>イ 学力の定着</p> <p>ウ 卒業後の進路実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣確立の必要性について説明し、生徒に意識付けを行い、欠席・遅刻・早退の数を減らす。 定期考査や模試、到達度テストの結果を活用し、生徒の学習に関する指導・助言を行い、学力の定着を図る。 卒業の進路実現をさせるために進路指導部と連携しながら、早めの意識付けを行い、受験・就職準備をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康管理や時間への意識が高まるように指導する。 定期考査の事前対策などの意識をもたせる。 本人、保護者、担任がチームとなり、進路を実現していく体制を整える。

12 2 年 生	<p>ア 基本的学習習慣の定着と向上</p> <p>イ 他者との繋がりを実感できる意識の高揚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科を問わず、日々の授業を大切にし、学習に向かうことを習慣化させる指導を継続する。 ・学校以外の場においても学びを継続するための情報提供を、関係各所との連携の中で進めていく。 ・自己を見つめ、支えてくれる周囲の人や現在の環境に対して、自然と感謝ができるような意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に応じた学習意欲を喚起し、目標を達成することができるような指導をする。 ・あいさつができ、より良いコミュニケーションを図ることができる人間形成に努める。
13 3 年 生	<p>ア 基本的生活習慣の確立</p> <p>イ 学力の定着</p> <p>ウ 卒業後の進路実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣確立の必要性について説明し、生徒に意識付けを行う。 ・授業・補習を中心とし、予習・復習をはじめとした、家庭での学習習慣を確立させる。 ・進路指導部と連携を図り、生徒、進路指導部員、担任の3者での進路面談の時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理や時間への意識が高まるように指導する。 ・学習に対する意識をもたせる。 ・生徒、担任、進路指導部がチームとなり、生徒が進路実現していく体制を整える。
14 理 工 科	<p>ア 学びの探究</p> <p>イ 進路実現の探究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習状況をデータベース化する。 ・教科「理工」「課題研究」の教材の充実に努める。 ・研究テーマについて生徒一人1回は発表するように努める。 ・大学を訪問したり、大学との連携を強化したりすることで、本校生徒に適した入試情報の収集を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談、学習サポート等で活用し、その記録を学年や進路指導部と共有する。 ・文化祭等で各自の研究テーマによる発表を行う。 ・進路指導部と情報を共有する。
15 機 械 系 学 科	<p>ア 自ら課題に取り組める生徒の育成</p> <p>イ 知識・技能、社会人基礎力の醸成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に職員が生徒と関り、個々を尊重し伸ばす指導を目指す。 ・作業が苦手な生徒には特に丁寧な対応をし、理解を深めさせると共に技能の習得を目指す。 ・職員が個々の生徒に対したグループに対して適切な課題を設定し、問題解決に向けた取組ができ、それぞれの力を育む指導を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や学科主任と情報共有し、生徒が負担と感じないように配慮しながら指導していく。 ・先ず、ものづくりの愉しさを知ったうえで、自ら問題解決に努め、作業をやりきらせるように指導していく。 ・課題設定が生徒の能力に合っているか職員間で情報共有しながら進め、生徒の力で適切な発表会になるように誘導していく。
16 電 気 系 学 科	<p>ア 学習指導の充実</p> <p>イ 進路指導の充実</p> <p>ウ 生活指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本的な知識と技術を取得させ、応用力を身に付けさせる。 ・目標を定め、国家資格取得をさせる。 ・キャリア教育活動に参加させ、実践的な技術や知識を学ばせ、個々の生徒が目指す進路について調べさせる。 ・個々の特性を把握し、自分をうまくコントロールできる人間の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の能力を把握し、個々の生徒の能力に合わせた指導をする。 ・企業や進学先と連携した教育活動に努める。 ・人間力の育成を目指し、教員が協力して前向きな姿勢で指導に当たる。

17 建設科	<p>ア 工業教育の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学科づくり <p>・生きた学びの実践</p> <p>イ 進路指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動（課題研究・競技会など）の充実を図り、その成果を学校説明会やSNS等を通じて広く発信する。 ・産業界や大学等と連携し、実践的な知識、技術を学ぶ機会を設けることで、建設業界に対する関心を高める。 ・工業の特色を生かした大学進学、技術系公務員や企業（技術職）への就職を支援する進路指導体制を継続的に展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが主体的に考え、行動するために必要な支援を継続的に行う。 ・あいちT&Eサポーター企業や近隣大学等と連携した教育活動を実践する。 ・進路指導部、進学部との連携を密にした上で、生徒に寄り添った指導を実践する。
18 デザイン工学科	<p>ア 産業界で活躍するデザイナーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインの魅力を発信 ・進路指導の充実 <p>イ 地域、企業、大学との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、講習を通してデザイン業界や大学の特色などの情報を提供しつつ、デザインの魅力を伝える。 ・国公立大学進学を主軸とした進路面談を充実させる。多様な補習を実施し、進路実現に取り組む。 ・地域、企業、大学と連携した制作活動をするとともに、生徒の活動成果を積極的にPRする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を主軸とした進路実現に必要な能力や条件等を周知し、有意義な学習をさせる。 ・進学希望者に入試対策としての実技指導を計画的、継続的に行う。 ・企業と連携し、より実践的な活動を展開する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・望ましいキャリア教育と進路指導 ・保護者や地域に信頼される学校づくりと情報発信 ・生徒に寄り添う学校づくり ・ICTの効果的な活用 ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況 	